

日韓軍事史研究会の概要

濱 田 秀

1 軍史編纂研究所における研究会参加

平成 18 年 11 月 29 日～30 日の間、韓国・ソウルの軍史編纂研究所において研究会が開催され、日本側からは加賀谷貞司戦史部長、高橋敏政主任研究官が参加した。11 月 29 日 1600～1700 の間は、構内の戦争記念館の研修、翌 30 日 0900～1500 の間、今年度のテーマである「軍事史交流の成果と展望」について研究会が実施された。

30 日午前は、高橋主任研究官による「日本側から見た日韓軍事史交流の成果と認識」、及び加賀谷戦史部長による「今後の軍事史交流の展望」、軍史編纂研究所の梁寧柝研究員による「韓国側から見た日韓軍事史交流の成果と認識」の発表が実施された。

午後は 1300～1400 の間、安秉漢軍史編纂所長による「今後の軍事史交流の展望」の発表、総合討議が行われた。その後、1500～1800 の間、仁川研修が実施された。

研究会及び総合討議を通じ、これまでの成果を確認するとともに、今後の交流においても、中・長期的に研究交流テーマを決定、あるいは概定して研究者が周到な準備を行い研究交流に臨む体勢を整備することで意見が一致した。

また意見として共同研究実施の提案が出された。例えば、創設時の韓国軍に影響を与えたと推察される、人的・物的基盤の淵源について日本側として史料調査、韓国側としてオーラルヒストリー等の手法により、多面的に研究を実施する等、両研究所が同一テーマについて、研究成果を提示して比較・検討を行う意義は大きいのではないかなど、自由な意見が交わされた。

当研究会における、韓国研究者との意見交換及び討論を通じ、日韓両研究所の相互理解に資することが出来たものとする。

2 独立運動史研究所における研究会参加

平成 18 年 12 月 1 日、0900～1700 の間、韓国・忠清南道天安市の独立運動史研究所において近代日韓関係史研究会が行われ、同研究所からの招聘に応じて日本側から山村健主任研究官及び濱田秀所員が参加した。さらにオブザーバーとして加賀谷戦史部長、高橋主任研究官も参加した。

今回は、「防衛研究所所蔵の韓国独立運動に関する史料の評価」をテーマとして研究会が実施された。午前中は、日本側から高橋主任研究官及び山村主任研究官が、午後は韓国側から独立運動史研究所の朴敏泳研究員及び金度亨研究員ならびに日本側から濱田所員が発表を行い、各発表ごとに双方の熱心な質疑応答が行われた。また研究会終了後、隣接する独立運動記念館を見学した。

独立運動史研究所は、主として植民地統治下の朝鮮における独立運動の研究を実施している。しかしながら、韓国側においては当該時期の記録・史料等は不足しており、同研究所は防衛研究所の史料に高い価値を見出している。今回の研究会でも、防衛研究所所蔵史料に対する強い関心、収集意欲を直接に感ずることができた。日本側から各種資料の提供を行い、その解読の助言等を通じて、日韓の歴史認識がより正確な事実を踏まえたものとなることが期待される。以上のように日韓双方が史料を多角的に論ずることができたという点で意義ある研究会であった。

(防衛研究所戦史部所員)